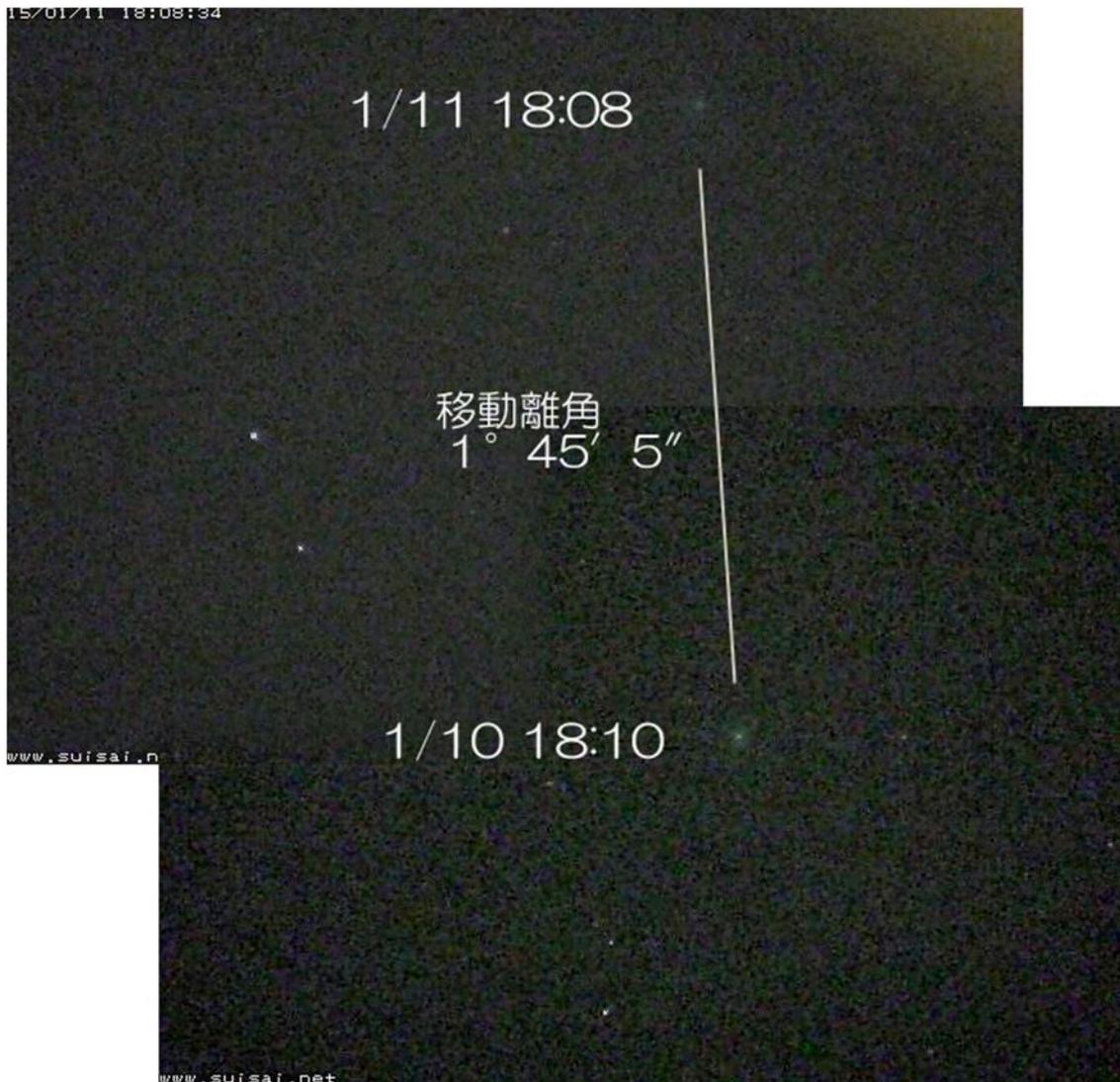


「ラブジョイ彗星の移動」

小学校の理科では、「星座は動いて見えるが、その形は変わらない」と教えます。「星座は日周運動で動いて見えるが、恒星の固有運動は、ほとんど固定しているほどゆっくりなので、感じられない。」ということです。太陽系の天体は例外です。特に内惑星（水星・金星）は、天球上を常に移動しています。微小な小惑星や遠い彗星が確実に発見されるのも、翌日には天球上（星座の中）で位置を変えるからです。太陽系の天体の中でも、彗星の移動のしかたは、群を抜いています。



上の写真は、ラブジョイ彗星の 24 時間の天球上の動きです。これは、日周運動ではなく、彗星の実体（コマ）が地球に対して相対的に移動した動きです。画像を解析すると、視角度で 2° 近く移動しています。月の視直径が約 0.5° ですから、満月の直径の 3 倍以上を移動していることとなります。太陽系の天体としては、恐るべき「俊足」です。このような観測ができるのも、遠隔操作が可能なカメラを設置しているからです。もっと、高感度の「冷却 CCD」を使った遠隔天体観測を計画しています。たぶん、大学が資金援助してくれるでしょう・・・！！